

傷んだ文化財に手を加えることなく

デジタル画像で往時の姿に復元

平成22年度 採択事業

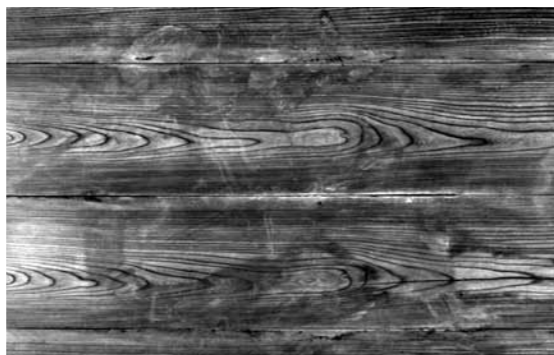


法輪寺・虚空蔵菩薩の復元画像と大隈剛由さん

ボロボロの鳳凰に胸を痛める

先人の残した歴史遺産はたくさん存在しています。けれども、色や筆づかいが鮮烈なまま現存しているものは希少です。従来は、往時の姿を再現するには模写やCGに頼るほかありませんでした。また「修復」とは、くすんだ表面に洗いをかけ、今以上は傷まないよう絵具を留める処理を施すだけ。手を加えれば現状破壊と見なされるので、実物に加筆や塗り直しはできません。

さて、カメラマンだった大隈剛由さんは13年ほど前、お宮参りの記念撮影を行っていた神社で一枚の板戸と出会いました。「鳳凰を描いた板戸の修復があがったので記録写真を撮ってほしい」と依頼されます。ただ撮るだけで良かったのですが、修復後だというのに絵具がはげ落ちたボロボロの鳳凰がかわいそうで、自主的にデジタル修正した画像を添えて届けました。神主さんはたいそう驚き、またたいへん喜ばれたそう。感激される姿を見て、これは必要とされている仕事だと思い至ったとのこと。



東京都小平市にある海岸寺の山門天井画
経年で何が描かれていたか判別不能に



復元でくっきり浮かび上がった龍の絵

文化財に込められた先人の心を復元

以前から、葬儀の遺影などはきれいに見えるよう画像処理を行っていたので、現物を触らずデジタル修正するノウハウは持っていた大隈さん。けれども技術を先行させるのではなく、「古人の崇敬を集めていた文化財は、彼らの精神的な営みを記録したものだと思います。つまり本来の“文化財”とは、そこに込められた“心”のことでしょう。だからこそ材料や技術だけにこだわるのではなく、この精神性

知恵と卓越した技術 観光資源の活用

を復元すべき」と大隈さん。文化財が生み出された背景にある、想いをよみがえらせたいと考えたそうです。そして、見えなくなってしまったものを何とか見たいという要望にも応えたいと決意しました。

当時は枚方に事務所を構えていた大隈さんは、撮影から画像処理の分野へとシフトして試行錯誤を繰り返し、データで復元する様々な技法を編み出します。例えば墨などの鉱物性物質が紙や木に残っていると、風化していても赤外線当てれば内部に残留する物質が黒く浮かび上がるそう。いっぽう紫外線は白い顔料などに反応するので、紫外線で浮かび上がる部分のみを写せる特殊フィルターをかぶせて撮影すれば、必要な情報だけを写すことができるそうです。これらの技術を組み合わせ、元あった状態、知りたい情報を取り出し、それをベースに描かれた時代の姿を画像でよみがえらせます。「修正との大きな違いは、情報を置き換えないことです。いくらきれいになっても、手を入れてしまったのは元の情報とは異なりますから」と大隈さん。

分析器の導入で信頼性を高める

その結果、平成19(2007)年に大阪府から「なにわの名工」の認定を受けました。以後、文化財なら京都だろうということで京都へ転移。平成22(2010)年には技術を認めた精華町長の推薦があって、京都府から「現代の名工」に認定されます。

とはいえ、順風満帆ではありませんでした。「公の仕事なら信じるが、一民間人は信用できない」「現物がきれいにならねば要らない」、そういう人が多かったのです。また、公的機関も歴史学者などの言うことは信じますが、研究者の裏付けがない仕事は採用しないそうです。ある公の文化財研究所に復元画像を見せたところ、「色はどうやって判明した？絵具の分析はどうした？分析すらない仕事なんて復元ではない」と言われたとか。

分析すらしていない…ならば分析ぐらいやってやろう。それ以上の結果を出してやろう。こう思った大隈さんは、ちょうど募集していた支援事業を知って申請し、ファンドを元に分析器(蛍光X線分析装置)を購入しました。市販の分析器は調べる物体を中に入れて操作する仕組みですが、これでは文化財から絵具をはがさねばなりません。そこで、分析器からユニット自体を外して対象物に近づけ、特殊撮影で検査できるようにメーカーと共同開発で改造してもらったそうです。



使用顔料などの推測に役立つ蛍光X線分析装置

貴重な記録を後世に残したい

分析調査が加わることで、元素分析や材料の成分分析ができるようになって信頼度が高まり、まずは調査としてなら公からの発注も見込めるのでは。文化財を所有する寺社や自治体が「見に行きたいと思う人が増えれば観光資源にもなる」として依頼してくれれば…と、大隈さんは期待を寄せます。

「私は研究者ではなく技術者、職人であり、長年に構築したノウハウを駆使して最善の結果を出すのが使命です。傷んだものは元には戻りませんが、そこには当時の記録が留まっています。朽ち果てれば貴重な記録をも失うこととなります。デジタルでは現物は復元できなくても、残された記録は復元可能で、後世へ伝えることができるでしょう。また文化財だけでなく、古い写真や文字が消えた領収書・契約書などの復元も手がけ、一般人の役にも立ちたい。ファンドで希望する満額を頂戴できたのは、京都府も期待してくださっているのだと思いますし、分析器も活かして期待に応えるため頑張ります」と大隈さん。日本だけでなく中国など文化遺産を数多く所蔵する国にも需要はあるはずなので、海外へのアピールも視野に入れていきます。この熱い気持ちが、花開くことを願ってやみません。

事業概要

合資会社 文化財復元センター
<http://www.fukugen.co.jp/>
 代表：大隈剛由
 業種：文化資料の撮影復元、蛍光X線分析機による分析・調査、特殊撮影
 創業：平成16(2004)年
 住所：〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7 けいはんなプラザ ラボ棟5階
 TEL：050-1058-8025 FAX：0774-39-7091